

あつぎこどもの森公園は ……

長い間、地元の人によって里山の木は炭や薪に、谷戸は田んぼや畑として利用されていましたが、昭和40年代以降社会の変化と共に使われなくなりました。

昭和30年代までこのような所にはたくさんの種類の生き物が生息し、生物多様性に富んだところでした。

人の手が入らなくなってやや少なくなったものの、ここには今では珍しくなった貴重な生き物がいろいろいます。

2015年、神奈川県自然保護協会が選ぶ県内生物多様性ホットスポットとして選定されました。

あつぎこどもの森公園憲章

私たち厚木市民は、「あつぎこどもの森公園」において、多くの生き物に恵まれた自然環境や里山の文化などの資源を守り、いかしながら、遊んで学んで元気になれる自然体験活動を通じてたくましい子どもたちを育てる取組を推進するため、この憲章を定めます。

- ・ 私たちは、厚木市の生き物にとって重要な場所である「あつぎこどもの森公園」の自然環境を守り、育て、その大切さを伝えます。
- ・ 私たちは、里山の自然環境の特性をいかした様々な体験の機会を子どもたちに提供し、生きる力を育みます。
- ・ 私たちは、里山で継承されてきた農業や暮らしの知恵を伝承し、新たな里山の文化を育てます。

制作 ©あつぎこどもの森クラブ自然プロジェクトグループ 通巻68号
写真・図 吉田文雄・ナカノジュンゴ・あつぎこどもの森公園・青砥航次
連絡先 あつぎこどもの森公園管理棟 046-210-3433

E-mail atugikodomonomorikurabu@gmail.com

HP: <https://atsugikodomonomori.com/>

2022年第5回自然ガイドウォーク

キアシドクガ

— 手すりの上のドラマ —

2022年5月21日（土）



キアシドクガ ドクガ科ですが毒はありません

主催 あつぎこどもの森クラブ

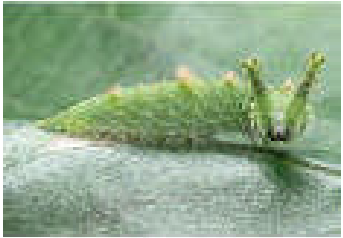
こどもの森公園のチョウ・ガ どれくらいいるの？

この公園には少なくとも160種のチョウ目（グループ）の昆虫が住んでいることが分かりました。

今回はその幼虫の中から少しだけ紹介します。

・ 広葉樹周辺の手すり

- ・ エノキ（アサ科エノキ属）



←葉の上のアカボシゴマダラ（外来種）

オオムラサキ（日本の国蝶）、テングチョウ
ヒオドシチョウ、ゴマダラチョウなど

- ・ クヌギ・コナラ（ブナ科 落葉樹）



←コナラの葉を食べるオオトビモンシャチホコガ
幼虫（毒なし）
ホソバシャチホコ、アカスジアオリング、アカ
シジミ、マユミトガリバ、ヤママユなど

- ・ アラカシ・シラカシ（ブナ科 常緑樹）



←シラカシの新芽に登るミドリリングガ幼虫

他にムラサキシジミなど

- ・ ミズキ・クマノミズキ（ミズキ科）



←ミズキの葉の上のキアシドクガ幼虫（毒なし）

他にアゲハモドキ、ウスベニトガリバ、
フタテンシロカギバなど

・ 針葉樹周辺の手すり

- ・ スギ、ヒノキ（ヒノキ科）



←手すりの上にあったクロクモエダシャク
幼虫

他にもスギドクガ、ツマオビアツバなど

- ・ つる性植物

- ・ フジ（マメ科）



↑ 手すりの上にあったキシタバ幼虫

- ・ アケビ（アケビ科）



↑ アケビキノハ幼虫

他に セスジナミシャクなど

- ・ ササなどイネ科植物



←アズマネザサの葉の上のクロコノマチ
ヨウ幼虫

他にヒカゲチョウ、クロヒカゲ、
ヒメウラナミジャンメ、ササカレハなど

- ・ 地衣類



←ススキの葉の上のクビワウスグロホソバ
幼虫

他にヨツボシホソバ、ハガタベニコケガ
など

最近のこどもの森公園



ホオノキ



コゴメウツギ



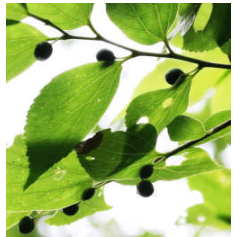
ニシキウツギ



クサイチゴ実



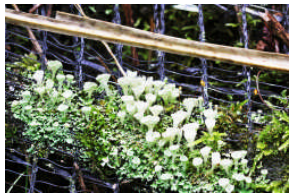
ケキツネノボタン



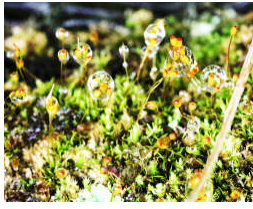
エノキ (実)



エゴノキ

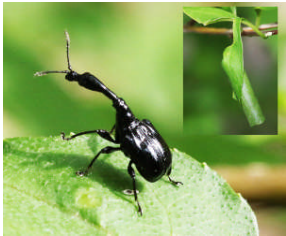


ヒメジョウゴゴケ



ツチノウエノコゴケ

木の花は白が目立つ季節です。
白い花には匂いのよいものいろいろあります。



エゴツルクピオトシフミ
右上は揺籃



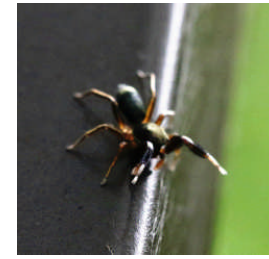
カシルリオトシフミ



ジャコウアゲハ ♀



ゴミグモ



アリグモ



ドヨウオニグモ

ゴミグモは巣の中にゴミを集めたような隠れ帯を作ります。



カナヘビ



変わった模様のミスジマイマイ

センサーカメラがとらえた画像



ニホンジカ ♂ 4/26

角があるのは雄だけです。

枝分かれがないので2年目です。普通雄は群を作らないので、まだ独り立ちしていない兄弟かも知れません。



ハシブトガラス

何かをくわえています。

活動の記録

いきものガイド 5/15

この日はアオダイショウが人気でした。

小さい子は、初めて見るヘビに興味津々、意外と可愛い目をしてるね、おなかとしゃべの境わかる?等と観察しました。

ヘビが嫌いな人は多いのですが、どうしてきらいになったのでしょうか?

その土地の生態系の頂点に立つヘビは、自然のバランスを保つ大事なはたらきをしています。小さいときに先入観のない目でヘビを見た子は、無意味にヘビをいじめるような大人にはならないのではないかと思います。



東京農大野生動物学科里山実習

5/18



1



2



3

参加学生総勢約40人。

年寄りの多いこどもの森クラブスタッフにとっては年1回のこの行事は貴重な機会です。

1は開墾畑の整備。ここには果樹や山菜、ゴボウやフキなど獣の害が少ないもの植える予定です。

2は田の畦の補強。

3は、クヌギやコナラの実生を掘り取る作業。このままでは枯れてしまうものを苗に仕立てて植樹に使う予定です。

参加して下さったみなさまご苦労様でした。

こどもの森ガイドウオーク（自然観察）原則毎月第3土曜日

ガイドウオークはコロナの蔓延期間中定員20名にしています。原則事前申し込み制で、定員に空きがある場合は当日参加もできます。会員に限らず誰でも申し込みます。

管理棟集合 参加無料どなたでも参加できます。 開始時間要確認

4月16日	スミレの秘密	10月15日	秋の花
5月21日	キアシドクガ	11月19日	木の実・草の実・キノコ
	一手すりの上のドラマー	12月17日	生き物の冬越し
6月18日	木に咲く花 次回	2023年	
7月16日	樹液の酒場	1月21日	冬の野鳥
8月20日	水辺の生き物	2月25日	冬芽とコケ
9月17日	谷戸のシダ	3月18日	春の兆し

水辺の生き物調査隊（申し込み制 年間メンバー固定）

4月10日	こどもの森公園と水生生物について	
5月8日	両生類～カエル・イモリについて	
6月12日	ホタルについて	← 次回
7月10日	水生カメムシについて	
8月21日	トンボについて	
9月23日	河川調査について	
10月2日	外来生物について	
10月16日	水生コウチュウについて	七沢遠足
11月13日	ホトケドジョウについて	
12月11日	冬の生き物の過ごし方	
1月9日	落ち葉かき・カブトムシ増やし	
2月12日	トンボの幼虫を絵に描こう	
3月12日	ヤマアカガエルについて	

新型コロナウイルスの蔓延状況により中止の場合があります。

植物モニタリング

原則毎月第2金曜日の9:30から 決まったコースを歩いて出現する植物を記録します。植物を覚えたい方により機会です。会員対象

草木染め勉強会

園内にある植物を使って草木染めをいろいろ試してみようという会です。毎月第3金曜日午前中。 会員対象です。(入会はいつでも受付けています)

いきものガイド

東京農大学生による生き物調べお手伝い 第1, 第3日曜13時～